

今井 通子（いまい みちこ）氏（本名：高橋 通子（たかはし みちこ）氏）



昭和17年2月1日生（81歳 世田谷区在住）

登山家

医学博士

※年齢は令和5年10月1日現在

経歴

- 昭和17年 東京府（現東京都）生まれ
- 昭和35年 東京女子医科大学入学、山岳部に入部
- 昭和42年 東京女子医科大学泌尿器科助手
- 同 年 マッターホルン北壁を女性パーティで世界初登攀（はん）
- 昭和44年 アイガー北壁登攀
- 昭和46年 グランド・ジョラス北壁登攀、女性で世界初のヨーロッパアルプス三大北壁登攀を達成
- 昭和57年 医学博士号取得
- 昭和60年 冬季チョモランマ（エベレスト）北壁登攀を指揮、隊員が世界最高到達点を記録
- 昭和62年 世界第6位の高峰チョオオユ登攀
- 平成19年 社団法人日本山岳ガイド協会副会長
- 平成20年 特定非営利活動法人森林セラピーソサエティ理事長
- 平成23年 国際自然・森林医学会（INFOM）会長
- 令和 2年 「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰

顕彰事由

氏は、世界の登山史に残る偉業を成し遂げるとともに、長きにわたり泌尿器科医師として社会に貢献した。また、近年はその経験を生かし、国内外における自然環境の大切さについての普及啓発や環境問題の研究に精力的に取り組んでいる。

多方面にわたり活躍する氏の功績は多大であり、人々に希望や活力を与えるその姿は、広く都民が敬愛し、誇りとするところである。

候補者のコメント

欧州三大北壁登攀に興じた頃からナチュラルリストと言われた私は、1980年代に生態系の中でも森の持つ能力を知り、その後、予防医学としての森林医学に携わっています。人口約1,400万の東京の森林率は約40%で、地球の陸地の森林率30.3%を大幅に超えています。

この度、東京都名誉都民にご推挙いただき、改めて、東京都ははじめ生産者である多くの森と消費者である人々の元気を未来に繋ぐ努力をしていく所存です。

中村 メイコ（なかむら めいこ）氏（本名：神津 五月（こうづ さつき）氏）



昭和9年5月13日生（89歳 調布市在住）
俳優

※年齢は令和5年10月1日現在

経歴

- 昭和 9年 東京府（現東京都）生まれ
- 昭和12年 「江戸っ子健ちゃん」で映画デビュー
- 昭和15年 NHK実験放送のドラマ「謡（うたい）と代用品」でテレビ初出演
- 昭和28年 ラジオドラマ「お姉さんといっしょ」出演
- 昭和30年 レコード「田舎のバス」発売
- 昭和32年 作曲家の神津善行氏と結婚
- 昭和34年 第10回NHK紅白歌合戦の紅組司会
- 昭和47年 バラエティー番組「お笑いオンステージ」出演
- 昭和58年 第34回日本放送協会放送文化賞
- 平成 3年 ラジオ「メイコのいきいきモーニング」放送開始
- 平成12年 第20回日本文芸大賞エッセイ奨励賞
- 平成14年 NHK連続テレビ小説「さくら」出演
- 平成20年 NHK大河ドラマ「篤姫」出演
- 令和 3年 著書「大事なものから捨てなさい メイコ流 笑って死ぬための33のヒント」発売

顕彰事由

氏は、86年もの長きにわたり映画・ラジオ・テレビ・著作と多方面で活躍し、その人間的な魅力や数々の作品は、多くの人々に親しまれてきた。日本のエンターテインメントの発展に貢献した功績は多大であり、今もなお活動を続けるその姿は、人々に希望や活力を与え、広く都民が敬愛し、誇りとするところである。

候補者のコメント

長すぎますヨオ！
女優生活も母親生活も
— ちっともベテランになれないまま — 中村メイコ
「おかあさんはいいネ、いまだにビックリしたり、笑いころげたりすることがあって！」と、3人の子どもたちは言います。
マサにその通り。よせくる波のように、いろいろなオジゴトを、マサに‘空気のように’うけとめては楽しく見送っています。
長生きしてるとこんな事もあるんだ！ありがとうございます！ビックリしました。

堀田 力（ほった つとむ）氏



昭和9年4月12日生（89歳 川崎市在住）
元公益財団法人さわやか福祉財団会長

※年齢は令和5年10月1日現在

経歴

- 昭和 9年 京都府生まれ
昭和33年 京都大学法学部卒業
昭和36年 検事任官
昭和41年 大阪地方検察庁特別捜査部検事
昭和47年 在アメリカ合衆国日本国大使館一等書記官
昭和51年 東京地方検察庁特別捜査部検事、ロッキード事件を担当
昭和59年 法務大臣官房人事課長
平成 元年 最高検察庁検事
平成 2年 法務大臣官房長
平成 3年 最高検察庁を退職し弁護士登録、さわやか法律事務所及びさわやか福祉推進センターを設立
平成 7年 さわやか福祉財団理事長
平成13年 社会福祉法人東京都社会福祉協議会会長
平成26年 公益財団法人さわやか福祉財団会長

顕彰事由

氏は、検事を皮切りに司法の世界で活躍してきたが、すべての人が生きがいを持ち、人を傷つけることなく助け合って生きる社会を実現するため、退職後は福祉活動に身を投じ、「新しいふれあい社会の創造」を旗印に、ボランティア活動の普及啓発に尽力するなど、30年以上にわたり日本の福祉推進に貢献している。

氏の功績は多大であり、高い志を持ち、積極的に前進し続けるその姿は、人々に希望や活力を与え、広く都民が敬愛し、誇りとするところである。

候補者のコメント

私はすべての人が助け合ってお互いに幸せになれる社会を目指して30年間活動してきました。昨年脳梗塞で倒れましたが、それでも近くの町内などをめぐり、まず挨拶するところから、ふれあいを深めたいとよびかけております。この度名誉都民にご推挙いただいたことは、私のささやかな運動を力強く後押ししてくれるものとして心から喜んでおります。ありがとうございました。